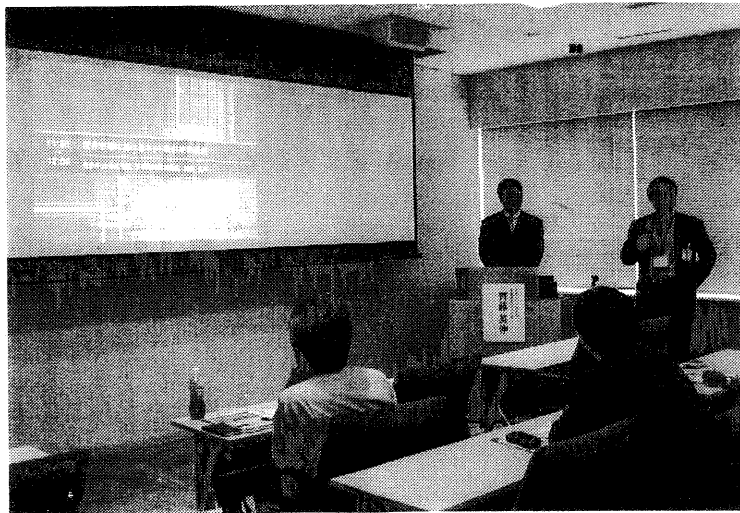


生鮮流通フォーラム

効率性確保への提案

パーソナル情報システム



生鮮流通フォーラムで事例を紹介する齋藤英信氏(左)と片桐正雄氏(右)

迎え量から質への転換期」などの課題に対応すべくテーマや事例を取り入れた内容で構成。

メインセミナーは、トレイサビリティに関するはキュービー(株)生産本部技術企画担当部長・高山勇氏が「加工食品工場におけるト

レーサビリティシステムの構築」。小売マーケティングとしてエイジテック・アンド・ブレインズ(株)取締役・山本慎一郎氏。環境問題では(株)FMS総合研究所取締役副社長・志岐秀明氏が「食産業における廃棄物自己処理システム」みやぎ生協の事例」。ネットビジネスでは立教大学大学院ビジネスデザイン研究科教授・青木輝夫氏が「Web2.0時代の食品マーケティング戦略」など、そうそうたる講師陣で構成され、多数の受講者でにぎわっていた。

事例セミナー会場では、ITソリューションとして「花き市場におけるネット取引成功事例」として花きネット(株)事業推進担当課長・齋藤英信氏、パーソナル情報システム常務執行役員・片桐正雄氏から事例が紹介された。

また、特設展示会場では、花きERPシステムや花きネットASPサービスなどのパネル展示も行い、今後の業界の動きを力強くサポートするサービスを紹介。両軸で好評開催となっていた。

現在、市場「買参人間ネ

ット販売では、ASPで20市場が導入、その市場を通じてネットで行っている買参人は600人の実績がある。

-事例紹介-

花き市場でのネット取引

集荷・販売力を改善

齋藤英信氏、片桐正雄氏

市場においては、産地からの集荷力、小売への販売力の2つに対し改善のお手伝いをしたい。

市場の売上拡大シナリオとしては、自社買参人向けネット販売で既存顧客の囲い込みを行い、近隣市場との迅速な連携で集荷力を高める市場間スルー取引、珍しい商品の集荷による付加価値向上としてのセンター構想、そして共同ネット販売で販売力の強化、があ

る。

花きネットASP(ASP)は、市場「買参人間ネット販売」市場「市場間スルー取引」市場「共同販売」市場「共同集荷」市場「小売間ネット販売」の6

パーソナル情報システム(株)(東京都港区、片桐良行社長)では、花きなどの生鮮食品と食品産業全般の卸、小売、商社、スーパー、量販、冷蔵車業などに向けた「第5回生鮮流通フォーラム」を8月24日・25日の2日間、東京都港区東新橋の汐留シティセンター大会議室で開催した。協賛川富

士通(株)。今回のフォーラムでは、国民生活の安定向上を図る上で極めて重要な役割を果たす生鮮流通部門の効率性の確保が基本的な課題になっている、として、「これまで以上の機能を発揮しうる高度なシステム構築」や「似たものの競争・安さが売りの物から、少子高齢化を

市場間スルー取引、珍しい商品の集荷による付加価値向上としてのセンター構想、そして共同ネット販売で販売力の強化、があ

る。

現在、市場「買参人間ネ

ット販売では、ASPで20市場が導入、その市場を通じてネットで行っている買参人は600人の実績がある。